

サイト間リンクを利用したオンライン小説探索システム

渡邊 初音

インターネット上には大量かつ多種多様な知識資源が存在している。中には小説や詩といった、「芸術・娯楽文」とでも呼ぶべき分野のものがある。誰もが発信者になり得るインターネットの特性により、芸術・娯楽文も盛んに制作・発表されているが、これらを特に取り上げた研究は少ない。この分野のテキストは選択の基準が嗜好・感性に依ることが特徴的だと言える。本研究ではこの芸術・娯楽文の中でもオンライン小説の探索に特化した探索方法を提示し、システムの作成と評価を行った。

オンライン小説を探す現行の方法はいくつか存在するが、既知の小説掲載サイトからリンクを辿る方法は、その有力な 1 つである。リンクが推薦であるという考えに基づいた場合、リンク元となる小説掲載サイトの作品が閲覧者の嗜好・感性に合うなら、リンク先の作品もある程度好みに合うと推測される。しかしこの方法はサイトを一つ一つ閲覧するのに手間と時間を要する。よって、現行の方法のうち小説掲載サイト専門の検索サイトを利用する方法と組み合わせ、検索とリンクの探索の双方を行えるシステムを提案する。

試作したシステムは小説掲載サイトのデータと、そのサイト間のリンクのデータをあらかじめ取得しておく方式とした。サイトのデータは既存の検索サイトから抽出し、最終的に 2,327 件を、リンクのデータは各小説掲載サイトから 3,375 件を得た。これらを MySQL によるデータベースに登録し、HTML、PHP、JavaScript を用いてインタフェースを作成した。

評価はアンケートと探索作業からなる実験によって行った。アンケートでは被験者の属性値と既存の方法と比較したときの本システムの評価等を尋ね、実験ではシステムの使用履歴を記録した。さらに探索した各小説掲載サイトに対して被験者に「興味・関心度」の観点で 5 段階の評価値を付けてもらい、検索とリンク探索という機能間の相違との相関を比較した。結果としてアンケートから、従来のリンクを辿る探索方法と比して、本システムが有効であるという回答を得た。機能間の評価値の差については、リンク探索を使用した場合の方が僅かに高かったものの、標本の少なさもあり明確なことは言えなかった。評価値やリンク探索での一覧表示数といった事項は、アンケートでのシステム評価と多少相関する傾向が見られたが、これも断言するには至らなかった。

今後の課題としてアンケートの自由記述等から、システムの改善すべき点が明確になった。同時にリンク探索と併用した検索サイトについて、機能の限界が示唆されたため、これを補うような方式が望まれる。また芸術・娯楽文の探索における評価の困難さが浮き彫りとなった。

(指導教員 谷口祥一)